

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の学力調査の校内平均正答率は62.8%（基礎70.4%、活用45.8%）であり、目標値66.0%、全国平均正答率66.2%を下回っている。 「物語の内容を読み取る」の正答率77.8%に対して、「説明文の内容を読み取る」の正答率は44.4%とかなり低かった。論理的に読む力が低いと考えられる。 「調べたことをもとに文章を書く」の正答率が16.7%、「文章を書く」の正答率が41.7%と特に低かった。文章を書くことが苦手であり、指定された時間や条件で文章を書く力が高まっていない。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年5月実施の学力調査では、「話すこと・聞くこと」領域において、話し手に対して質問を考える問題で、正答は4人中1人だった。話し手の話に関心を持ち、内容に沿った質問をすることに課題がある。 漢字を書く問題で、4人中2人が、3問中1問のみ正答だった。漢字の書き取りに課題がある。 平仮名で書かれた文章の中から片仮名で書く語を答える問題では、正答は4人中2人だった。正答は「ドア」だが、誤答の2人は「新幹線」を片仮名で書くことと答えていた。片仮名で書く語の種類について理解が曖昧であること、また、読書経験や語彙の少なさも課題であると考えられる。 ひとまとまりの文章を箇条書きに直す問題で、正答は4人中2人だった。正答の2人についても、調査中に質問があった。問題文の意図を理解したり、順序立てて考えたりすることに課題がある。 4人中2人は最後まで問題を解くことができなかつたため、「書くこと」領域について学力調査の結果から分析することはできないが、普段の様子から、伝えたいことの中心が明らかになるように構成を考えて文章を書くことには課題がある。 「話すこと・聞くこと」領域と漢字の書き取りについては、第1・2学年の頃から課題として挙がっており、傾向は変わっていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取る学習では、まず文章の構成や大意を捉え、大事な語句を抜き出したり要約したりするなどして要点を正しく理解できるよう指導する。 文章を書く学習では、書く前に構成メモを作成させたり必要に応じて文型を示したりして書くことへの抵抗を減らすとともに、個に応じた支援を行う。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文章を読み取る学習では、大事な語句を抜き出したり要約したりするなどして要点を正しく理解できるよう指導する。 ②文章を書く学習では、構成メモや文型を活用し、個に応じた支援を行う。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①評価テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。 ②求められてことに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を評価する。
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取る力は、元々個人差が大きかったが、苦手としていた児童も音読の上達とともに理解が深まり、ほぼB基準には達するようになった。 文章を書く学習では、タブレット端末を活用することで推敲が容易になり、書くことへの抵抗感がなくなった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 長い文章を読むことへの抵抗感が強い児童がおり、意欲的に学習することが難しいことがある。 文章を一通り書いて満足してしまい、自分で書いた文章を読み返したり友達と読み合ったりして、文章をよりよくしようとする意識が低い。 	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ある程度長い文章を読んだり書いたりすることへの抵抗感をなくし、能動的に学習する態度を育成したい。そのために読書活動なども活用したい。 漢字の習得が苦手な児童は、練習による習熟や既習の漢字を使って文章を書く学習が必要であると思われる。
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p> <p>豊かな言語感覚を身に付け、文章の要旨を読み取ったり、自分の考えを表現したりすることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は61.1%（基礎60.8%，活用61.9%）であり，目標値65.2%，全国平均正答率66.1%を下回っている。・「ごみのしよりと利用」の正答率は60.0%，「先人の働き」の正答率は33.3%と目標との差が大きかった。自分たちの地域との違いもあるが，資料を読み取る力に課題があると見られる。・正答率の個人差が非常に大きかった。学習形態の工夫や個に応じた支援が必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学力調査において，第3学年社会科の調査は実施していない。・写真や地図などを読み取り，課題を見いだすことに課題がある。・身近な地域の学習に関して，地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・地図やグラフ，表などの資料を読み取る学習を丁寧に行い，資料活用の技能や基礎的な知識の定着を確実にする。・「ジグソー学習」などで調べたことを伝え合う学習を工夫し，「分かる」だけでなく「考えて表現する」ことを重視する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①地図やグラフ，表などの資料を読み取る学習を丁寧に行い，資料活用の技能や基礎的な知識の定着を確実にする。②「ジグソー学習」などで調べたことを伝え合う学習を通して，自分の考えを表現できるようにする。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・資料を読み取り，事象を理解することはある程度できており，どの児童もB基準以上の資料活用力を身に付けている。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の資料を合わせて多面的に考察したり，自分で必要な資料を取集したりする能力は，まだ不十分であると感じる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の資料を収集・精選し，それらを活用して社会的事象の意味を考察する能力を育成したい。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>資料を効果的に活用し，社会的事象の意味を考え，表現する児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は63.5%（基礎66.7%，活用55.6%）であり，目標値65.9%，全国平均正答率67.9%をやや下回っている。・「わり算・計算のきまり」の正答率が44.4%，「いろいろな形」が44.4%，「変わり方調べ」が50.0%となっており，目標値・全国平均を大きく下回っている。・「活用」や「思考・判断・表現」の正答率の個人差が大きく，結果的にクラスの数値を下げている。個に応じた支援が必要であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年5月実施の学力調査では，文章問題（求小の場面）で，正答が4人中1人だった。文章問題の場面を正しく読み取り，立式することに課題がある。・長方形の色紙を敷き詰めて正方形を作る場面で，作った四角形が正方形になる理由を記述する問題の正答が4人中1人だった。筋道を立てて考えること，そして考えたことを言葉や数や式を使って説明することに課題がある。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項や四則計算の復習を意図的に行い，知識・技能の定着を確実にする。・文章問題では図示するなどして題意の理解を確実にし，正しく立式することを重視する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①習熟問題や既習事項の復習を重視し，知識・技能の定着を確実にする。②文章問題では図示するなどして題意の理解を確実にし，正しく立式できるように指導する。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎基本の習熟に重点を置き，繰り返し問題に取り組むことで，知識・技能がかなり定着してきた。どの児童もB基準以上を達成し，苦手意識は軽減してきた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・文章問題や応用問題では，立式に迷うことがある児童もいる。・四則計算や小数・分数の計算の間違いもあり，更なる習熟が必要であると感じる。	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・新しい学習内容では，まず基礎基本の習熟を徹底する。・既習事項の振り返りを繰り返し行い，定着を確認する。・算数が得意・苦手の個人差が大きいため，個別最適な学習を取り入れる。
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p> <p>習得した知識・技能を活用して，正確に問題を解決する児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は51.7%（基礎55.0%，活用44.4%）であり，目標値61.7%，全国平均正答率59.5%をかなり下回っている。・「電気のはたらき」が22.2%，「月と星」が33.3%，「物の体積と温度」が44.4%，「水のすがた」が41.7%と特に正答率が低かった。「基礎」が55.0%で，目標値の68.5%に対してかなり低かった。・個人差が非常に大きく，正答率が低い児童は無答が多かった。時間内に問題に取り組む力が不足していた。	
2. 課題改善に向けた取組状況 <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度から理科の学習を始めたばかりなので，科学的思考がまだ身に付いていない。・観察や実験に対する興味・関心は高いが，理由や根拠を探ろうとする意識が低い。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的な知識や技能を確実に身に付けているかを理解するために授業の導入や各単元の最後に振り返りを行い，復習を徹底する。・生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図，資料等を使って表現させることによって，論理的に思考することを習慣化させ，表現力を高める。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
4. 検証結果（成果と課題） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・知識・技能面では，直近に学習した内容はほぼ身につしており，B基準以上を達成している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・実験結果から考察したことを表現することや既習事項と関連付けて論理的に考えることが苦手な児童がいる。	5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項 <ul style="list-style-type: none">・実験の目的を明確にし，結果から考察することを通して，論理的に考えることや考えたことを表現することに重点を置いて指導したい。
6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿 <p>既習事項や生活経験を生かして，自然事象を論理的に考える児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「音楽科の授業が好きか」や「音楽科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。5学年の児童は総じて音楽に対する意欲、関心が高く、歌唱だけではなく器楽の表現についても意欲的に取り組むことができるが、楽しむことを重視するあまり、技能の向上についてはやや課題が残る。また、鑑賞の活動においては、自分の感じたことや考えたことを言語化することが苦手な児童が多い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないように、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">様々な種類の楽器を用いたアンサンブルの活動を通して、協働的に練習に取り組む習慣を作る。鑑賞の活動を通して、自分の思いや意図を言語化し、演奏に生かせるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① スモールステップによるアンサンブル活動</p> <p>② 鑑賞の活動では教科書と音源だけではなく、作曲家や楽曲に関する資料も配布する。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 毎時の小目標を提示し、達成度合いを検証する。</p> <p>② ワークシートの記述内容。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">個々の演奏技能の向上が見られた。また、アンサンブルの活動を通して、お互い協力しながら協働的に課題に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">自身の演奏の振り返りや、鑑賞の課題に対して、思いや意図をきちんと言語化する力にはやや課題が残る。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">思いや意図をもって音楽を批評する能力を身につけるための工夫。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の思いや意図を丁寧に表現できる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>活動の種類によって得意、不得意、好き、嫌いが明確に分かれており、興味のもてない題材や苦手な活動に対して消極的になりがちで取組の質に波がある点が課題である。活動を楽しむだけ、あるいは苦手をこなすだけで終わらせず、学んだことや身に付けたことを次につなげていけるように取組の質を向上させていくことが必要である。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため改善を図る必要がある。</p> <p>【改善策】造形活動そのものへの意欲が高く、すぐに活動を始めたいため雰囲気があるが、造形遊びと絵や立体に表す活動では導入に変化をつけ、用具や材料の特性を踏まえて「なにができるか」や「なにをしたいか」を考えながら、自分らしく主題を設定して完成形のイメージをもちながら活動を進めていけるよう支援する。</p> <p>【評価】これまでの経験や知識、身に付けた技法を生かす場面が少しずつ増え、新たに発想したことを積極的に試しながら活動を楽しんでいる児童が多い。よりよい表現や活動の質の向上を目指して苦手意識を解消しながら取り組めるような指導の工夫を継続していく必要がある。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>作品の相互鑑賞や振り返り活動の中で、自分の意図したことと実際に行った工夫を関連させながら言語化して他者に伝えることに力を入れ、表現の過程や結果を自分自身で整理して次につなげていけるようにしている。また、そのつながりが題材導入時に意識できるような言葉かけを行っている。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ自分らしく発想したことを基に、作品をより良くするための工夫を凝らすことができた。 ・与えられた時間に対して、早すぎたり遅すぎたりしないよう、それぞれが自分で考えながら調整することができた。 <p><課題></p> <p>絵や立体に表す活動や造形遊びの活動は楽しみながら取り組むが、鑑賞や活動の振り返り、まとめなどに取り組むときに消極的な様子が見られる児童が多いことが課題である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入で目指すゴールと全体の流れを示したうえで、それぞれの進捗状況を見ながら、設定した時間に対して差が開きすぎないように、個別の声掛けとサポートを継続する。 ・作ったり描いたりする活動だけでなく、鑑賞の時間も楽しみながら、見方や感じ方を深め、活動のまとめや振り返りを充実させられるような取組の設定やワークシートの工夫を凝らす。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>作品制作以外の活動にも主体的に取り組み、活動の中で感じたことや考えたことを言語化できる児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

授業内での実習・実験等の体験的な活動の有無で興味関心に偏りが見られる。また授業題材によっては消極的に取り組み、「授業から学ぶ」のではなく「授業をこなす」という傾向が見られる点が課題である。全ての題材においての興味関心を高め、自身の生活と結び付けて考えを深めながら自分から進んで学ぼうとする意欲を向上させていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度未実施のため該当項目なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・実習や実験などの体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、動画などの視覚教材を活用しながら理解を深められるようにしている。
- ・自身の生活について振り返る機会を設けたり、実習や実験などの体験的な活動を通して学んだことを家庭で生かせるように記録課題を設定したりしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①視覚教材を活用したり、実習や実験等の体験的な活動を多く取り入れたりする授業構築を行う。
- ②授業内での困り感を払拭する声掛けと個に応じた適切な支援。

<検証方法>

- ①授業評価アンケート，毎授業の振り返り。
- ②授業評価アンケート，ワークシート，毎授業の振り返り，題材毎の単元テスト。実習や製作の記録課題。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・体験的な活動をととして、題材への学びを深めながら知識を定着させることができた。

<課題>

- ・実習や実験等の体験的な授業では、積極的に楽しみながら取り組むことができるが、自分の考えをまとめたり、授業を振り返ったりする際に消極的に取り組む児童が多い。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・全ての題材において体験的な活動を取り入れながら振り返りやまとめをスムーズに言語化，表現できるように声掛けや個に応じた指導を継続していく。
- ・より題材への理解を深めるために，導入で実生活の振り返る時間を設ける。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

全ての題材において主体的に取り組み，自分の考えやまとめを表現できる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好きか」や「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。自分たちでルールを工夫したり、自分やチームの特徴をとらえて作戦を立てたりすることを上級生に頼ってしまうことに課題がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度6月実施の体力テストにおいては、高い記録を示している児童がいる一方で、「ソフトボール投げ」等で記録が伸びていない児童もいた。このことから、児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。 <p>→分かりやすい技能のポイントを複数用意し、自分に合ったものを選択できるようにする。また、ICT機器を活用し、児童が自分自身の動きを視覚的に確認して改善につなげることができるようにする。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">技能ポイントやルールをモニターに映し出し、視覚的に体感できるようにしている。選択肢を用意したり少し道筋を見せたりして、考えるきっかけを作っている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回授業評価アンケートを実施する。②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">ルールやポイントを可視化したことで、「ここを直せばいいんだ」という思考が生まれ、苦手な動きを「工夫」で補うことができるようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">「今の自分にはこれが必要だ」という判断をするのが難しく、やりたい練習を選んで取り組んでしまう。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">児童の運動を楽しむ原動力を維持し、技能向上を目指すための「やりたい」と「必要」のギャップを埋める指導
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自己の技能を高め、児童が互いにはげまし高め合えるような思考力・判断力・表現力を育む児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">教科書で学習した単語や定型的なフレーズの理解や聞き取りは良好であるが、スモールトークやALTとのやり取りにおいて「What～?」「Who～?」「Why～?」などと聞かれた際に、上手く会話することが苦手である。自分の思いや考えを伝える際に、I'm～.やIt's～.を付け忘れて単語で発言する様子が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">ALTと協力し、ジェスチャーをしたり、他の言い方で伝えたりしながら、児童に取り組んでほしいことを英語で理解できるようにする。児童が単語で自分の思いや考えを伝えようとした際に、I～.I'm～.などの言葉を付け加えて児童が復唱するように促す。アルファベットや重要語句をワークシートに書く活動を取り入れている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①ねらいとするフレーズを使った2～3往復の短い対話を毎回の授業で行い、必要に応じて言い直しなどの支援を行う。②アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①授業の中で、ALTや教師、友達との対話の様子を観察する。パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせで表現できているか評価する。②ワークシートや評価テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">直近に学習した短いフレーズの対話を、教師や友達と行うことができている。アルファベットの読み書きは、ほぼ定着している。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">単語だけの受け答えになることや既習のフレーズを活用できない児童もいる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">新しく学習する内容については、繰り返し発音練習をして自信をもたせ、英語で短い対話を楽しんで行えるようにする。5年生ではあまり行わなかった書く学習にも取り組む。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身に付けた語彙や表現を活用して英語のコミュニケーションを楽しむ児童</p>	